

探検活動と社会での意義

OB会々長 村岡威彦

我々の学生時代は、現在と違い、海外渡航の自由というものもなく、個人の意志に拘らず今程活発には出来なかった。又、我が日本も現在の様な経済大国ではなく、円の価値も、ドルと比して低いものであった。

この様に述べたからと言って、現在の探検が過去の探検に比して意義が低くなるという様には、決して思っているわけではない。

その時代に即した新しい探検活動こそ将来の社会での飛躍につながるのであって、この様な自由な時代にこそ、若者がノホホンと、時を過ごしてしまわず、将来封鎖されるかも知れない、又消滅してしまうかも知れない、様々な事を探検して置くべきであると言える。

私の過去に於ける探検活動が、現在の社会に何らかの貢献をしたとは、決して思わないが、今後、我々の探検活動が続けられることに依って多少なりとも社会に足跡を残せるだろう事を願って止まない。若し探検家として大きな実績が残せなくとも恥じることは、決してないと思う。生涯探検つ

まり探ると言う意義さえ忘却しなければ、それが実社会を動かす、大きな原動力となるであろうから。

現在の社会の様にマスコミ的行為で物事を判断する人が大多数である時代には、独立独歩の精神を養うチャンスが非常に少ないので探検活動、つまり他人がやろうとしなかった事、深く探ろうとしなかったことをやろうと言う精神はどの様な職場に於いても、大いに有意義な結果を産み出せると信じる。

私事になって恐縮であるが、私が探検活動をしていて現在一番良かったと思えることは秩序正しい、責任有る探検活動は、社会でのどの様なケースにも、置き換えられるということである。現在の私の職業は、セールスマンであるが、得意先の開拓、新商品の売り込みにおいても、探ると言う一本の道が源となり、貢献している。今後の私の探検は、セールスマンの道の探検である。

“人生は一生が探検である。”探検こそが、我々が進むケルンとなってくれるであろう。

(OB)

